



Title	聴くことの力：臨床哲学試論（目次）
Author(s)	鷲田，清一
Citation	臨床哲学ニューズレター．1998，2，p. 83-84
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/81746
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

[VI さまざまな発言]

聴くことの手——臨床哲学試論（目次）

驚田清一

前回掲載した「聴くことの手——〈試み〉としての哲学」は、第二回以降も、「聴くことの手——臨床哲学試論」というかたちで、季刊『アステイオン』（TBSブリタニカ）に連載中です。分量がたいへんに多くなっていますので、以下、号数と目次のみ記しておきます。

第2回 「だれの前で、という問題」 『アステイオン』1997年春号

1. 哲学の場所
2. 眼がかちあうということ
3. 声かとどくということ
4. なにかに向かうということ

第3回 「遇うということ」 『アステイオン』1997年夏号

1. 沈黙とことばの折りあい
2. 間がとれない
3. 補完性
4. だれかに遇うということ

第4回 「迎え入れるということ」 『アステイオン』1997年秋号

1. ある人生相談
2. 言葉が掴む、声が響く
3. だれが聴くのか？
4. ホスピタリティについて

第5回 「苦痛の苦痛」

『アステイオン』1998年冬号

1. われらみな異邦人
2. 傷つきやすさということ
3. 苦しみを失う
4. 祈りとしての聴取
5. パックという療法

第6回 「〈ふれる〉と〈さわる〉」

『アステイオン』1998年春号

1. ひとの脈にふれる
2. 〈ふれ〉の位相
3. 「さわる」音
4. 音響的存在としてのひと